

生徒講評文

8月 4日 5校目

大垣桜 高等学校

アンビション～桜のような物語～

(既成・創作)

この劇のテーマは「自分の生き方」だと思った。おばあちゃんの認知症や進路、友情関係を通して、えみるの成長、心情の変化を感じ取ることができた。

装置では、レンガに見えていた物が立てると家の壁になっていて、工夫されていると思った。公園の遊具は強度が高く、実際に使うことができ実物を忠実に再現していると思った。

音響と照明では、最初のダンスシーンで、鮮やかな照明と元気なBGMが女子高生らしさを出していたし、幕が上がったときのインパクトを強くしていた。劇の後半にあったさやかからおばあちゃんを順番に単サスで当てていくシーンは、「さくら」のBGMも重なって、えみるが前に進んだということが表現されていたし、照明の色が人間味あふれる暖かい感じを出していた。

キャストでは、一人一人の個性が強く、よくキャラクター作りがされていると思った。また、アドリブもあって自然な会話ができている。しかし、所々声が小さく、聞き取りづらい部分があった。

この劇を通して、家族の大切さや自分が今後どう生きて行くかを考えさせられた。また、たくやの台詞はこの劇のターニングポイントになっていて、特に認知症を語るシーンでは学ぶものがあった。私もえみるのように、桜の開花、つまりは成功や新たな出発のために努力をしていきたいと思った。そして、開花した後も次のステップに向けて、できることをやっていきたいと思った。

大垣桜高校の皆さん、お疲れさまでした。

池田高校 野村琴音

